

平成 19 年 7 月 25 日

東京都板橋区小豆沢 3-6-10

オリエンタル酵母工業株式会社

オリエンタル酵母工業株式会社 第 1 四半期連結決算発表

第 1 四半期は減収減益。通期では原材料費高騰分を更なるコスト削減と
価格改定、新製品開発で克服し、業績は当初予想の見込み

平成 20 年 3 月期 第 1 四半期連結決算

オリエンタル酵母工業は R & D 体制の更なる強化や、研究開発・製造・営業が一体となった積極的な販売促進活動を推進し、出荷増を図ってまいりました。しかしながら、食品部門の売上はイースト・製パン改良剤・バタークリーム類は好調でしたが、マヨネーズ・総菜や商事商品は前年同期を下回りました。バイオ部門の売上は生化学・免疫製品や養魚用飼料等は前年同期を上回りましたが、バイオニュートリショナル製品や実験動物用飼料、更には付加価値の高い研究支援事業等が低迷しました。

また、世界的なバイオエタノール需要の拡大によりイーストの原料である糖蜜、及び澱粉糖や植物油等の原料である穀物価格、更には飼料原料である魚粉は引き続き高騰しております。これらの広範囲な原材料費の高騰分をコスト削減施策や価格改定で補填できなかったことに加え、付加価値の高いバイオ部門の一部製品の売上低迷が収益を圧迫いたしました。

この結果、第 1 四半期の売上高は 154 億 11 百万円（前年同期比 98.9%）となり、営業利益は 4 億 66 百万円（前年同期比 85.0%）、経常利益は 4 億 98 百万円（前年同期比 83.1%）で、四半期純利益は 2 億 79 百万円（前年同期比 86.1%）となりました。

平成 20 年 3 月期 通期連結業績予想

食品部門では、原材料価格高騰に対するコスト削減施策の更なる促進に加え、主要製品の価格改定の浸透により収益の改善を図ってまいります。また、埼玉工場の生産体制の拡充や、開発部門を一部統合し新製品上市の積極的な展開を図ると共に、引き続き総合的な販売活動を推進し売上の伸長を図ってまいります。

バイオ部門では、バイオサイエンス部の新設に伴い従来の長浜生物科学研究所を機構改革し、R & D と生産体制の強化・充実に努めてまいります。更には、千葉工場の製造ライン新設や関係会社の実験動物用飼育施設の増設等により、ラボラトリーアニマルサイエンス事業の拡充を図ってまいります。こうした生産体制の拡充や業容拡大策と、更なる販促活動の推進により、バイオ部門の売上増と収益改善を目指してまいります。

通期の業績予想につきましては、当初発表いたしました業績予想に変更はありません。

以 上